

生物学的製剤による乾癬治療

# TNF- $\alpha$ 阻害薬と IL-12/23阻害薬

東京慈恵会医科大学皮膚科学講座 築場 広一

## KEY WORDS

- 乾癬
- 生物学的製剤
- インフリキシマブ
- アダリムマブ
- ウステキヌマブ

## はじめに

乾癬に対する生物学的製剤を用いた治療は、わが国では2010年に抗TNF- $\alpha$ 抗体製剤であるインフリキシマブとアダリムマブが、2011年からは抗IL-12/23p40抗体であるウステキヌマブが保険承認されて以来すでに数年が経過し、乾癬に対する標準治療としての認識も定着した感がある。また2015年からは、抗IL-17A抗体であるセクキヌマブも保険承認された。今後も抗IL-23p19抗体や抗IL-17受容体抗体なども保険適応になる可能性があり、乾癬に対する治療の選択肢はますます多様になると考えられる。本稿では、インフリキシマブ、アダリムマブおよびウステキヌマブの3剤に関するこれまでの報告から、それぞれの特徴と臨床の場における使い分け(表)について概説したい。

## I. 各薬剤の特徴

## 1. インフリキシマブ

インフリキシマブは炎症性サイトカインであるTNF- $\alpha$ の作用を阻害する抗体であり、乾癬の皮疹および関節症状を速やかに、かつ強力に改善する。インフリキシマブは部分的にマウスの蛋白質成分を含むキメラ型抗体であるため、治療経過中に抗薬剤抗体が出現し、効果が減弱する現象(二次無効)がみられることがある。また、インフリキシマブは点滴静注製剤であり、投与中あるいは投与後2時間以内にアレルギー様の投与時反応を5~10%程度に起こす<sup>1)2)</sup>ので、注意が必要である。インフリキシマブは体重換算(5 mg/kg)で投与量を決定する。

## 2. アダリムマブ

アダリムマブもインフリキシマブと同様に、TNF- $\alpha$ の作用を阻害する抗体であるが、インフリキシマブと異なる

Anti-TNF- $\alpha$  agents and  
anti-IL-12/23 agent.  
Koichi Yanaba (講師)